



音楽の文化遺産を未来に活かそう！ レガシーピアノ保存プロジェクト

報道資料

1. プロジェクトの概要

ピアニストのケンプ、アラウ、ルービンシュタイン、エッセンバッハ。バリトン歌手のF.ディースカウやソプラノ歌手のE.シュワルツコップ、チェリストのロストロポーヴィッチ…
20世紀のクラシック音楽の巨匠たちが直筆サインを寄せた一台の古いコンサートグランドピアノが、福岡市に眠っています。これは1963年製ハンブルグ・スタインウェイ社のもので、これらのサインは、昭和後半期に世界から名演奏家が来演し、地方に音楽文化が普及していった足跡を示します。他に類を見ない「レガシーピアノ」です。

本プロジェクトは、ピアノを所有する福岡市の全面協力のもと、この貴重な「レガシーピアノ」を修復し、次世代につないでいく取り組みです。官民連携で組織した実行委員会が主体となり、地域や企業・団体、個人を問わず、幅広く支援を募ります。趣旨に賛同いただき、早くも国際的に活躍されているピアニストの仲道郁代さん、国府弘子さんらアーティストから支援の声が寄せられています。

修復と活用の総事業費は、約1800万円と高額な費用が見込まれます。全額を寄付で賄う計画です。クラウドファンディングは、そのうち1000万円を目標に寄付を募ってまいります。



2. 保存活動に至った経緯と背景

「福岡市民会館に世界の名演奏家たちが、いくつもサインを残したピアノがあるらしい」—プロジェクトが始まるきっかけは、ある一人の市民の声でした。

福岡市民会館は、過去60年間にわたってクラシック、ポピュラー音楽、バレエ、日本舞踊、歌劇、演劇など、ジャンルを問わず多種多様な興行や集會に利用されてきた、今なお市民芸術の中心的な活動拠点の一つです。ただ、施設の老朽化も顕著になり、市民会館の隣接地に新しい拠点文化施設の建設が始まっています。声を寄せた市民は、市民会館が閉館して解体される計画であることから「貴重なピアノが人知れず廃棄されてしまうのではないかと心配をしていました。

市民有志に私たちも加わり、ピアノについて調べ始めました。ずいぶん以前に市民会館から福岡サンパレスホテル&ホールに移されたピアノが、そのままずっと保管されていることが分かりました。サインは38人分あることや、長い年月を経る間に、薄れたり、消えたりしていることも確認することができました。

福岡市民会館に当時の公演記録がほとんど残っておらず、署名と照合する資料がなかったために、サインをした人物の特定は難航しました。サインが残された経緯も不明です。判読できる一部の著名な演奏家を除けば、サインの主も分かりませんでした。個々のサインに見当をつけて音楽家のサインと照合したり、古い音楽雑誌の演奏会記録と突き合わせたりといった作業を積み重ねました。サインを残した音楽家の多くは既に他界しています。幸いに本人が存命で、じかに連絡がとれ「確かに自分のサインだ」とピアノの存在に感激してくれたピアニストもいます。

サインの全容が明らかになってくると、調査に協力を仰いだ音楽界を中心に「貴重なピアノだ。文化遺産として守りたい」という声が高まってきました。私たちが取りまとめた提案に、ピアノを所有する福岡市も趣旨を理解し、協力を申し出たことで「レガシーピアノ保存プロジェクト」が動き始めました。

3. プロジェクト実行委員会の発足

ピアノを保存活用する方針が定まったことを受けて、活動主体となる組織づくりに着手しました。西日本新聞社が事務局となり、2022年7月13日に「レガシーピアノ保存プロジェクト実行委員会」が発足しました。実行委員会は、福岡市からピアノを借り受け、修復して返還する活動に取り組みます。

委員会のメンバー構成は次の通りです。

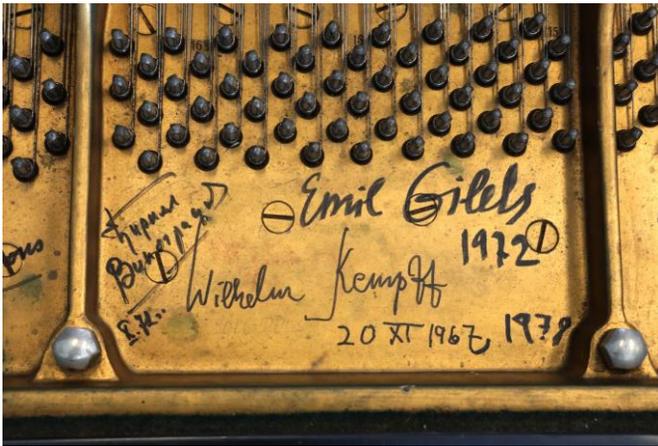
会長	柴田建哉（西日本新聞社 代表取締役社長）	
副会長	倉富純男（九州経済連合会 会長／九州交響楽団 後援会長）	
委員	大久保昭彦（西日本新聞社 取締役）	
〃	川原武浩（ふくや 代表取締役社長）	
〃	久保田勇夫（西日本フィナンシャルホールディングス 代表取締役会長）	
〃	竹添賢一（NHK福岡放送局 局長）	
〃	田中美江（ピアニスト／音楽指導者）	
〃	深澤功（九州交響楽団 音楽顧問）	
〃	吉田宏幸（福岡市経済観光文化局理事）	(50音順)
監事	金子りか（福岡市美術館 事業管理課長）	
〃	西尾正和（福岡市 文化施設課長）	
〃	松尾吉高（西日本新聞イベントサービス 総務部長）	
事務局長	安武弘子（西日本新聞イベントサービス 代表取締役社長）	

4. ピアノに遺されたサインの価値

ピアノに残されたサインは、全部で38人分です。残念ながらうち6人分は、いまだに氏名が判然としません。このように多くの世界的な音楽家達が同一のピアノにサインを残した例は、非常に希少であるかと思われます。音楽の専門家たちも異口同音に「他に聞いたことがない」「唯一の例ではないか」と驚いています。これは「福岡」という一地方都市が、20世紀半ばの高度経済成長時代に先駆的な音楽ホールを得て、名演奏家が次々に来演したことによる、偶然の産物だと考えられます。

私たちは、世界の第一線で活躍する、国籍も人種もレパートリーも異なる音楽家たちが、福岡市を訪れて演奏した事実を自ら記録したサインは、市民にとって大切にすべき文化遺産だと考えます。演奏家たちは福岡の地域性や聴衆に好感を抱き、親交の情をこれらのサインに託したのではないのでしょうか。

名を連ねる音楽家たちは、第2次世界大戦後の復興を象徴する存在であったり、冷戦時代の東欧諸国、あるいは亡命先の国に在住していたり、激しい人種差別を克服して音楽を極めたりと、さまざまな時代背景や人生を背負っています。サインを通して、演奏をできる喜びや文化と平和を大切に思う気持ちが伝わってきます。こうした見地からも、私たちはこのピアノをレガシーとして、後世に守り継いでいきたいと思うのです。



<右上：エミール・ギレリス氏のサイン 1972年>
<下：ヴィルヘルム・ケンプ氏のサイン 1967年11月20日>

<左上：アルトゥール・ルービンシュタイン氏のサイン 1966年7月5日>
<右上：アンジュラン・チャン氏のサイン 2006年7月12日>
<中：ヤコフ・フリエール氏のサイン 1967年11月27日>
<下：ジャン＝ピエール・ランパル氏のサイン 1966年11月30日>
<右：ポラ・ロコビック氏のサイン 1972年5月23日>

5. クラウドファンディングの意義

実行委員会では「このプロジェクトは、一人でも多くの音楽ファンの支援を得られ実現させてこそ意味がある」という考えに基づき、クラウドファンディングに取り組みます。人間でいえば「還暦」に当たる60年の歴史を刻んだピアノは、これまで数多くの名演奏を支え、福岡の聴衆に届けてきました。また、そこにサインした世界の巨匠たちは、音楽によって世界中の音楽ファンの胸を打ってきました。それらすべての音楽を愛する人の手で、その力を結集して、ピアノの修復を実現したいのです。

支援をいただいたみなさまに、よみがえったピアノの音色を聴いていただくプランのほか、巨匠たちのサインをモチーフにしたプロジェクト限定グッズなどを返礼品とします。

どうぞ広く皆様のご支援をよろしく申し上げます。

◆クラウドファンディング概要◆

- ・募集開始： 2022年7月29日（金）12時公開
- ・募集期間： 2022年7月29日（金）～2022年10月31日（月）（94日間）
- ・目標金額： 1,000万円
- ・コース： 3000円のソナチネコースから、寄付型の全力応援コースまで
- ・リターン： 2023年10月に開催予定のピアノ修復完成お披露目コンサートへご招待
ピアノ1日フリー演奏権利（調律付き）など
- ・プロジェクトページ：<https://greenfunding.jp/linkstart/projects/6295>



コース	支援額	Thanks カード	オリジナルグッズ		お名前記載			記念コンサート招待	
			クリア ファイル	エコ バッグ	パネル	リーフ レット	HP	一般席	スペシャル シート
ソナチネ	3,000	御礼 メール							
ロンド	5,000	✓	✓						
ワルツ	10,000	✓	✓				✓	シングル●	
バラード	20,000	✓	✓				✓	ペアO	
プレリュード	30,000	✓	✓	✓			✓	ペアO	
エチュード	50,000	✓	✓	✓			✓		ペアO
ラプソディ	100,000	✓	✓	✓		✓	✓		ペアO
コンチェルト	150,000	✓	✓	✓	✓	✓	✓		ペアO
ピアノ一日演奏権利	200,000	✓			✓	✓	✓		ペアO
全力応援 バロック	100,000	✓			大	✓	✓		
全力応援 古典派	300,000	✓			大	✓	✓		
全力応援 ロマン派	500,000	✓			大	✓	✓		
全力応援 近代派	1,000,000	✓			大	✓	✓		

6. ピアノ修復後の活用について

プロジェクトは下記の通り、約1年間のピアノ修復期間を含めて、1年半程度の活動を見込んでいます。ピアノが福岡市民会館に里帰りし、お披露目コンサートを催して一区切りがつきます。ピアノはその後、福岡市美術館に収蔵され、同館ミュージアムホールを拠点に展示や演奏に活用される予定です。保存修復を支援していただいた多くの市民の目に触れ、耳を楽しませ、触れて親しんでいただきたいと思いますと考えています。

■今後のスケジュール

2022年7月29日	レガシーピアノ保存プロジェクト 記者発表会
8月～	ピアノ修復支援・寄附・協賛募集活動 クラウドファンディング (7月29日-10月31日) ピアノの修復 (2023年9月頃完成予定)
2023年10月中旬	ピアノの修復完成お披露目コンサート (福岡市民会館60周年)
11月～	福岡市美術館に収蔵(解説パネルやリーフレットの設置) 同館ミュージアムホールにて、演奏会など開催

■レガシーピアノ修復完成お披露目コンサート開催について

日 程：2023年10月中旬の週末を予定
場 所：福岡市民会館 大ホール（福岡市中央区天神天神5-1-23）
内 容：日本を代表するピアニストの一人、仲道郁代さんと共にピアノの醍醐味を存分にお楽しみいただきます。20世紀の巨匠たちが演奏してきたレガシーピアノを、21世紀を彩るピアニスト達が競演する夢の時間をお届けしてまいります。出演者は随時発表させていただきます。

< 本件に関するお問合せ先 >

レガシーピアノ保存プロジェクト実行委員会事務局
担当: 樋口、河北

TEL.092-711-5491 FAX.092-731-5210
E-mail: legacy-piano@nishinippon-event.co.jp

〒810-0001 福岡市中央区天神1-4-1
(西日本新聞イベントサービス内)